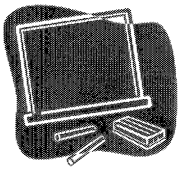
新しい薬学をめざして

Vol.43 No.9
2014.11.1

発行　新薬学研究者技術者集団

〒555-0024　大阪市西淀川区野里３丁目6-8　E-mail　shin-yakugaku@tea.ocn.ne.jp
（有）大阪ファルマプラン・あおぞら薬局　気付　郵便振替口座　01090-8-16463
TEL 06-6477-8080（担当 稲垣）　FAX 06-6477-8082　URL　http://pha.jp/shin-yakugaku/



「ミニゼミ」報告から

ＨＰＶワクチン（子宮頸がんワクチン）の社会的有用性を考える（その１）

廣田憲威

はじめに

子宮頸がんの発生要因のひとつにヒトパピローマウイルス（HPV）の関与が立証されたことから，子宮頸がん予防のためのワクチンの開発が始まった。

2006年６月，米メルク社（日本ではMSD）はHPV6，11，16，18型の抗体産生を目的としたHPVワクチン（ガーダシル）を米国で発売し，続いてグラクソスミスクライン社（GSK）が2007年５月に豪州でHPV16，18型に対応するHPVワクチン（サーバリックス）を発売した。わが国では，2009年10月にサーバリックスが承認され，２年後の2011年７月にガーダシルが承認された。

当初，HPVワクチンは任意接種（自費接種）であったが，公費化の市民運動の高まりのなかで，2013年４月からは定期接種（公費接種）となった。しかし，HPVワクチン使用直後から重篤な副反応が相次いだ。そのため，厚労省は定期接種を認めた直後の2013年６月に「積極的な推奨を一時的に差し控える」措置を決定し，現在に至っている。

本稿では，HPV感染と子宮頸がんとの関係，HPVワクチンの薬理作用，臨床的有効性，安全性の全般について概括し，HPVワクチンが社会的に意味のあるワクチンであるか否かについて考察する。

目　次

□ミニゼミ報告から
ＨＰＶワクチン（子宮頸がんワクチン）の社会的有用性を考える（その１）　廣田憲威……182
□医薬品の安全性を考える
「子宮頸がん」ワクチン被害からの問題提起　宮地典子……187
□福島のいま（その15）
避難している人々の願い　佐藤政男……193
□第33回日本社会薬学会年会開催される
・行動する意義に思いをはせた年会　谷口美保子……199
・日本社会薬学会年会に参加して　稲垣真弓……201
・５年ぶりに日本社会薬学会に参加して　三浦五郎……201
□女性が働くとき（4）
学術分野における男女共同参画への政府の取り組みと課題　池上幸江……204
□2014年私のささやかな「挑戦」と「感動」　佐々僚巳……210
□華甲からのつぶやき（1）
みなさんはじめまして　緒方信明……212
□新薬学者集団第３回運営委員会の報告……213